

# 野岸小だより

小諸市立野岸小学校NO.7  
令和5年10月2日 発行  
校長 丸山 穰

ようやく朝夕が涼しくなってきました。秋の気配も見つけることができそうです。じっくりといろいろなことに取り組める季節になってきました。子どもたちが、またひとつ大きくなれる季節でもあり、楽しい時期でもあります。

## 「野岸フェス」開催 9/16(土)

PTA を中心に、「野岸フェス」が開催されました。大人も子どももたくさん来ていただき、大盛況でした。それぞれのブースが、笑顔でいっぱいになっていました。



## 保護者懇談ありがとうございました

お忙しい中ご都合をつけていただきありがとうございました。お子さんのことで情報交換や、これからについて、担任とじっくり話すことができたでしょうか。学校と家庭が、子どもたちの生活のほとんどを占めています。しっかりと連携して支えていくために、これからも連絡を取りながら進めていこうと思っていますので、ご協力よろしくお願ひします。

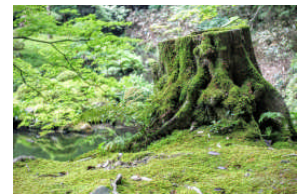
## 管楽部 全国大会へ

管楽部は、9/23 小学校バンドフェスティバル東海大会でも、満点をいただき、全国大会に進むことになりました。本番では、とても緊張していましたが、演奏が始まると、思いを伝える表現になり、会場の皆さんも、引きつけられるように聴き入っていました。それが、満点につながったのでしょうか。全国大会は、11/18(土)に大阪城ホールで開催されます。その前に、SBC 子ども音楽コンクールの県大会も10/21(土)に控えています。思いを伝える演奏で、会場を魅了してほしいと思っています。



## 「コケ」について

以前、子どもたちに校長講話でお話しした中に、「コケ」があります。1500年以上前、コケは日本人にとって特別な存在でした。倒れた樹木も、コケが育つ、とそこから新たな芽が出てきて次の樹木が育っていくことから、「再生」のシンボルでした。また、枯れてしまったコケを養分として次の世代のコケが育つという、前の世代を受け継いで発展していくシンボルという意味もありました。だから、コケは他の植物と違って、「生える」ではなく「生ず」と言います。ちなみに、「ムス」から、現在の繁栄を元に、次の世代を担ってくれる子どもたちのことを、期待を込めて「ムスコ」「ムスメ」と言います。というような内容でした。



私たち大人は、次の世代の子どもたちが、現在のよさや財産をしっかり受け継いでほしいので、「背中で教える」とか、「親の思うようにはならないが、親のようにはなる」などの言葉で、次世代の元になる現在をしっかり生きて、次世代の見本となろうという意味もあるのではないのでしょうか。「大人の背中で教える」「大人の思うようにはならないが、大人のようにはなる」と置き換えると、なるほどなと思ってしまう。学校でも家庭でも、子どもたちの回りの大人たちは、見本にならなければいけないなど、「コケ」を思い出すたびに、気を引き締めています。